

話題(1月)のニュース



睦月

◎睦月とは?意味と由来、読み方は?

睦月は、「睦び月(むつびづき)」が略されたものというのが、一般的な説です。「睦ぶ」とは、仲よくすること。新年を祝って、家族や親族が集まり、睦び親しむ月だからというのです。ほかにも異説があるのですが、説得力のある説が少なく、もっぱらこの説が通っています。年の初めを、みんな仲よく過ごしたいという気持ちは、誰もが持っていることだからでしょう。語源とされる「睦び月」も、そのまま1月の異称として使われました。



【1月のいろいろな呼び名】

◎【正月】(しょうがつ)

「正月」も、本来は1月の異称でした。語源は、政治に専念した秦(しん=中国最初の統一王朝)の始皇帝の誕生月が1月だったので、「政月」としたのだとか。ところが、彼の諱(いみな=生前の実名)も「政」だったので、字を「正月」と書き改め、読みも「しょうがつ」になったという説が有力です。

◎【初春月】(はつはるづき)

旧暦の時代は、1月から3月までが春とされました。1月は最初の春ですから、「初春(しよしゅん)」にあたります。「初春」は、そのまま、異称としても用いられました。「初春月(はつはるづき)」は、「初春」を訓読みにして「月」をつけたものです。

◎【早緑月】(さみどりづき)

旧暦の元日は、立春(2月4日)の前後になります。この頃から、木や草の芽が始め、枝や地面が、ほんのりと緑に見えるようになることから、「早緑月」という異称もつきました。1月7日には朝、野に出て、春の七草を摘んだそうです。

◎【太郎月】(たろうづき)

「太郎」は、もともと長男という意味です。長男の名前にもよくつけられてきました。転じて、物事のはじめを指す場合にも使われます。「太郎月」も、一年の最初の月ということです。これと呼応するように、12月は、末っ子の月という意味の「弟月(おとづき、おとづき)」とも呼びました。

◎【初陽】(しやう)

元日に、初日の出を見に行く人もいることでしょう。「初陽」は、朝日や日の出をさす言葉ですが、1月の異称としても使われました。年が改まったと思って眺める朝日は、より神々(こうごう)しく、力強く感じられます。そして、新年の希望の光のようにも眺められます。

◎【初空月】(はつそらづき)

初日の出は見なくても、元日の朝、空を見上げる人は多いかもしれませんね。元日の空のことを、「初空」といいます。そして、1月のことを、「初空月」ともいいました。

◎【初見月】(はつみづき)

「見」には、人と会うという意味もあります。昨日までと変わりはなくても、年が明けると、見るものも、出会う人も、今年初めてです。



フロレテフロレス

～花よ 花開け～



梅

花言葉:「上品・高潔・忍耐・忠実」



～コラム～



あけましておめでとうございます。

スタッフの皆様にとって素敵な一年となりますよう、社員一同お祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

～ TABLE OF CONTENTS ～



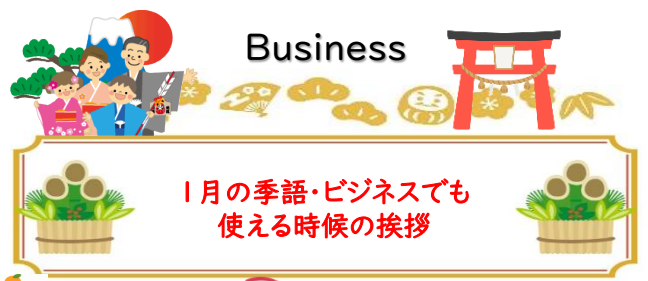
新年ご挨拶



ビジネス/LIFE



今月の話題



新年あけましておめでとうございます

2025年、初春のお慶びを申し上げます。
清々しい新春の風と共に、今年もまた皆様と新しい年を迎えられた心の喜びをかみしめながら、本年も皆様にとって希望と幸せに満ち溢れた素晴らしい年となりますことを心よりお祈り申し上げます。
世の中は瞬間に驚くようなスピードで変貌し、その流れは未だ止まることはなく、まさに新しい時代を感じさせられた昨年一年間でした。ただ、それを乗り切ったからこそ見えた風景を、今、確かにしっかりと見据えながら、新春の第一歩を踏み出したいと思います。
今年も新しい風が吹き続けるでしょう、私たちは更に新しい風景を見続けるために、今まさに必要とされる“フレキシブル(柔軟性・適応性)”と人や業務に“つながる”を行動に移し実現させてまいりたいと願います。長年の習慣や考え方をを変えることはそれは大変難しく時間も根気も必要なことです。が、それに勝る、価値のある新しい起点に立ち、新しい力で新しい自分への再生を叶えるためにも、個の力だけではなく仲間と助け合いながらそれを叶えてまいりましょう。人と人のつながりは、いつどの時代にも私たちが豊かな人生を送るために必要不可欠なものであり、同時に一番大切なものだと思います。今年もまた皆様としっかりとつながってまいります。
今年の干支は巳年、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」、「再生と誕生」を予感しながら、オネスタスタッフ一同、今年も皆様への感謝の気持ちを“形”に現す努力を継続しながら、一日一日を大切に過ごし、貢献してまいります。
本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。代表取締役 駒井裕子

【時候の挨拶とは】

日本には四季を表わす美しい言葉があります。手紙の冒頭の「時候の挨拶」は、天気や気候や季節の移り変わりや寒暖を表わす挨拶の言葉であると同時に、相手の健康を気づかう意味もあります。

◎1月上旬に使える時候の挨拶

改まった手紙の書き出しでは、「拝啓」など頭語の後に季節感を添える時候の挨拶を続けるのが一般的です。1月上旬に適した書き出しの時候の挨拶には、以下のようなものがあります。

- ・新春の候、貴社におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
- ・小寒のみぎり、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
- ・年も改まり、決意も新たにご活躍のことと存じます。

◎1月上旬の結びに使える時候の挨拶

手紙の最後に挿入する「敬具」など結語の前には、一般的に内容を締めくくる結びの挨拶を添えます。1月上旬に適した結びの時候の挨拶には以下のようなものがあります。

- ・初春の候、〇〇様のますますの発展をお祈りいたします。
- ・寒さ厳しき折、くれぐれもお体にはご留意ください。
- ・今年も〇〇様にとって幸多き年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

◎1月下旬の書き出しに使える時候の挨拶

- ・大寒の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
- ・雪晴れの青空が鮮やかな折、皆さまいかがお過ごしでしょうか。
- ・松の内のにぎわいも過ぎ、正月気分も抜けるころとなりました。

◎1月下旬の結びに使える時候の挨拶

大寒の候、ますます酷寒の候、貴社のさらなるご繁栄を、心よりご祈念いたします。

- ・もうしばらく寒い日が続きます。体調を崩さないよう気をつけてお過ごしください。
- ・暖かい春を待ちわびつつ、皆様のご多幸をお祈りいたしております。

【禁煙開始が「遅すぎる」ことはない】

喫煙習慣のある高齢者の中には、「今さら禁煙しても意味がない」と考えている人がいるかもしれない。しかし、実際はそんなことはない、高齢期に入ってから禁煙したとしても、タバコを吸い続けた場合よりも長い寿命を期待できることが明らかになった。

例えば75歳で禁煙した場合、喫煙を続けた人よりも1年以上長く生きられる確率が14.2%に上るといふ。若いうちに禁煙したほうがメリットは大きいものの、高齢になってから禁煙した場合にも、喫煙を続けた人より寿命が延びることが示された。

35歳の一般人口の平均余命は45.4年、喫煙歴のない人は47.8年、喫煙者は38.7年、35歳で禁煙した人は46.7年。35歳時点で禁煙することにより、喫煙を続けた場合に比べて平均余命が8.0年延長し、1年長く生きられる確率が52.8%、4年長く生きられる確率が45.4%、6年長く生きられる確率が40.6%、8年長く生きられる確率が36.0%であることが示された。

◎65歳で禁煙した人は平均余命がどのくらい延びる？

65歳の一般人口の平均余命は19.5年、喫煙歴のない人は20.9年、喫煙者は15.1年、65歳で禁煙した人は16.8年。65歳時点で禁煙することにより、喫煙を続けた場合に比べて平均余命が1.7年延長し、1年長く生きられる確率が23.4%、4年長く生きられる確率が16.3%、6年長く生きられる確率が12.4%、8年長く生きられる確率が9.3%だった。

また、75歳の一般人口の平均余命は12.3年、喫煙歴のない人は13.4年、喫煙者は9.0年、75歳で禁煙した人は9.7年。75歳時点で禁煙することにより、喫煙を続けた場合に比べて平均余命が0.7年延長し、1年長く生きられる確率が14.2%、4年長く生きられる確率が7.9%、6年長く生きられる確率が5.1%、8年長く生きられる確率が3.1%だった。

